





各神学校・大学での人権教育が紹介される

# 差別の根源はどこにあるのか 第24回神学校等人権教育懇談会

第24回神学校等人権教育懇談会が2010年7月8日(木)午後1時から5時まで、教団会議室で行われた。

出席者は、7つの神学校・大学神学部からの代表8名と部落解放センター関係者3名の計11名。

まず、礼拝で懇談会が始められ、西南大学神学部の片山真さんによって詩編130編のみ言葉から、差別の根源はどこにあるか等について心に問いかけるメッセージをいただいた。

その後、東谷誠さん(部落解放センター運営委員長)から挨拶があり、この懇談会を開き続けてきたことの意味や、神学校での人権教育を継続的に進めていくことの大切さについて語られた。

次のプログラムは、過去の人権教育懇談会で、参加者の間で交わされた質疑に対する発言について、その真意を確認する時間がもたれた。多くの時間がこのた

めに割かれたことになり、今後の懇談会の歩みのためには、必要な時間であった。

その後、同志社大学神学部の人権教育がどのように行われているかについて、資料を用いて詳しく紹介してくださった。とても興味深いものであった。

同志社大学が、一神学際研究センターを創設したことに変わり、どのようなカリキュラムが作れるか、総合大学の中にある神学部の課題、文科省からの要請に答えるための大変さ、人権に関わっては、学内に倫理審査室、ハラスメント防止のための委員会、クレ

ム・コミティ、人権教育懇談会(教職員対象)等の紹介があった。

その中で、心に留まったことは、文科省が大学に倫理基準のより高いレベルに、驚かされた。

次に、今後の予定について話し合い、年2回開いていくことが提案された。

次回は2011年3月24日(木)に教団会議室で行い、各神学校に事前にアンケートを送付し、どのような人権教育(部落差別問題)がなされているかの資料を集めて、懇談会に臨むことになった。

(横山基生報、東京聖書学校)

## エキユメニカル協力奨学金、奨学生2名選考

### 第2回国際関係委員会

第36総会期第2回国際関係委員会が、7月9日(金)日本基督教団会議室において委員5名中4名の出席を得て開催された。扱われた内容は概ね以下のものである。

(1) 報告事項  
EMS(南西ドイツ宣

教会)主催中東聖地巡礼の旅への参加者として2名を推薦し、後日EMSより2名の推薦が受理されたとの連絡を受けた。

6月9日(水)12日(土)に開催されたEMS宣教会議の報告を加藤誠幹事より受けた。

(2) 協議事項  
教会税の収入減の影響で、EMSの次年度の予算も大幅な減少が見込まれ、それに伴い、スタッフも削減される予定である。

第37回総会報告書については、大津健一委員長が作成した原案を承認した。

書記選出に関する件  
中道基夫委員長のドイツでの在外研究に伴い、委員長を書記の大津健一委員に交代したため、藤吉求理子委員を書記として選任した。

2009年度国際関係委員会会計に関する件  
大津健一委員長より、200

9年度国際関係委員会会計報告に基づき説明があり、協議した結果、原案通り承認した。

エキユメニカル協力奨学金・奨学生選考に関する件  
この制度は2008年から開始された。一年の予算は72万円である。従来は、候補者より2名を選出し奨学金を付与した。

今回は、5名の候補者が関係大学や関係施設より推薦された。協議の結果、従来通り2名を選考することになった。推薦文等の資料を委員が丁寧に読み合わせ、今年は、アジア学院と東京神学大学から各一名が選ばれた。

(藤吉求理子報)

## 第13回 部落解放青年ゼミナール 解放の輪がどんどん広がって



いづみ教会(大阪教区、南海地区)の前で

2010年8月10日(火)13日(金)にかけて、今年もまたいづみ教会で部落解放青年ゼミナールを行うことができました。

今回で13回目となる青年ゼミですが、回を追うごとにそこに集う仲間との絆が深まり、そこに新しい仲間も加わって、「解放」の輪

がどんどんと広がっていくのを感じます。今年は7名の新しい参加者が与えられた。総勢46名の仲間がいづみの地に集まりました。部落差別問題と真剣に向き合い、その中で気づきや葛藤を互いに腹を割って話し合うこの時間は、今では自分にとって、自分を飾ることなく素のままの仲間と交わり合うことのできる貴重な時間となっています。

今回の青年ゼミで私の印象に残ったのは、実行委員会の仲間の一人が担当してくれた聖書研究と、解放同盟難波支部の方に案内していただいた芦原橋のフィールドワークでした。

聖書研究ではマタイによる福音書15章21、28節が取り上げられ、「解放」には差別される側の人間だけでなく、差別する側の人間も解

き放たれていく必要があるということが発題者によって力強く語られ、「解放」のための新しい視点・気づきを与えられました。また、芦原橋のフィールドワークでは、結婚差別が、結婚する時だけでなく、その後夫婦を苦しめて離婚に至らしめるという現実を伺い、また各居住者の事情を抜きに低所得者層しか公営住宅に残れなくなっている社会構造を目の前にして、差別から連鎖していく様々な抑圧の悲惨さに大きなショックを受けました。

今回の青年ゼミの中でも度々指摘のあったことですが、こうした痛みは実際に経験した者でないと本当には理解できないのかもしれない。しかし、そのことに引け目を感じ、人の痛みをノックし続けることを止

めてしまつては、その痛みのすべてを知ることができないまでも、そこにえ下さつたお一人一人に厚く感謝を申し上げます。

(北村智史報/第13回部落解放青年ゼミナール実行委員長)



牛一頭分の皮を見せていただく

### 荒野の声

妻が包丁で指を切つたので、家事を引き受ける。厨房のことは嫌いではない。普段から出しゃばつては妻にうるさがられている。しかし、家事全般となると話は別だ。疲れが出たのか、5日目、刺身包丁を研いでいて左手中指をスライスしてしまつた。左手中指、最も利用頻度の低い指のようだが、とても不自由だ。痛みも勿論だが、濡らしてはならないというので、顔も満足に洗えない。何故か、パソコンは打ち間違ひばかりだ。殆ど右手ばかりを使っているような気がして、いたが、必ずしもそうではない。左手中指にも役割はあるのだ。10本の指に、存在価値の差などはない、皆重要なのだというのを思い知らされる。ところで、このコラムの主題は、体は一つでも、「ということではない」とのことだ。診察料無料。見立ても、技術も確かだ。しかし、商売の気がない。皆無。そうすると、流行らないものらしい。病院も客商売だからということか。設備が整い、先端技術を誇る大病院もありがたいが、医療最前線は街の医院だと思ふ。教会も同じだ。教団・教区の役職や、神学博士の肩書きはなく、礼拝出席が少なくとも、伝道最前線は、街や村の一教会であり一牧師だ。

# アメリカ派遣宣教師を訪問

## 第5回世界宣教師委員会



西南ドイツ宣教師局エキュメニカル開発途上国援助部門での動きを終え帰国した南吉衛宣教師(正面左)

第36総会期第5回世界宣教師委員会が7月9日、教団会議室で開かれた。多くの派遣宣教師や訪問者、関連委員会の報告を承認。特に、今回、村山盛芳委員長と加藤誠幹事とがアメリカに派遣している宣教師を訪問したこと、また、任期を終えて帰国された南吉衛宣教師の、帰国報告を聞くことに多くの関心と時間を割いた。

アメリカ訪問は、6月13日、ロサンゼルスからサンノゼ、サンフランシスコの宮川裕美子、西之園路子、佐原光児各宣教師とそれぞれの教会訪問のほか、スクラメントで開かれた合同メソジスト教会カリフォルニア・ネバダ部の年会にも出席。また6月18日より、ニューヨークに移って相良昌彦、小海光各宣教師の働きを聞き、アメリカ改革教会のニューヨーク教区事務所、合同メソジスト教会の海外宣教師訪問も行った。

多忙なスケジュールであったが、それぞれの宣教師が置かれている状況を実際に見、また直接に宣教師や教会の信徒の話を聞くことができて有益であったこと、また、このような不安の機会を派遣宣教師が強く求め、おり大いに喜ばれたこと、厳しい状況に置かれているところが多いことを実感できたことなどが報告された。

なお、加藤誠幹事はアメリカ訪問に先立って、6月7日、12日ドイツのケルン・ボン日本語教会の林原泰樹宣教師と教会員とを訪問し、EMS宣教師にも出席するというハードスケジュールであった。

16に及ぶ協議事項のうち、以下に4つを挙げたい。南吉衛宣教師の西南ドイツ宣教師局エキュメニカル開発途上国援助部門での働きを3月31日をもって辞任することを感謝と共に承認。カナダ・フリーザーバール系人教会は、人数の減少と財政難により6月をもって教会活動を終えることが伝えられていたが、カナダ合同教会の国内伝道基金の助成を受けて、日本語礼拝に加えて他の移民の国際結婚家族への奉仕活動やアジア系・アフリカ系移民の人々とのかわりとなり交わりを深める働きなどにも手を

広げることになり、働きが継続されることになった。木原葉子宣教師の任期延長の申請をするよう求めることとした。

在外宣教師より届けられている年度報告書を読み、これに対して各委員が分担して感謝と慰労の返書を書くことにし、担当を決めた。

第2回退任宣教師感謝ツアールはカナダからの強い希望もあり、実施することを次期委員会に申し送る。また、その実施にあたって、現地の元宣教師、三井義牧師と連絡しつつ、旅行社に実務を担当させることとした。

(秋山徹報)

### 消息

今井 晋氏(隠退教師)  
10年4月5日、逝去。87歳。京都府に生まれる。48年京都大学を卒業。57年准允。同年西陣教会に赴任。00年まで同教会を牧会し03年隠退した。遺族は、妻・今井美令さん。



10年4月21日、逝去。100歳。東京都に生まれる。35年日本神学校、37年オーストリア神学校を卒業。39年芝



10年4月21日、逝去。100歳。東京都に生まれる。35年日本神学校、37年オーストリア神学校を卒業。39年芝

教会に赴任。西荻窪教会を代務し、01年まで芝教会を牧会し、同年隠退した。遺族は、姪・大石洋子さん、野呂芳男氏(無任所教師)



10年4月26日、逝去。84歳。東京都に生まれる。日本基督教神学専門学校、二オン神学校を卒業。48年代々木山谷教会に赴任。57年より72年まで青山学院神学部に移った。遺族は、妻・林昌子牧師、渡辺玲子氏(無任所教師)



10年6月5日、逝去。76歳。愛知県に生まれる。57

10年6月12日、逝去。77歳。宮崎県に生まれる。57年同志社大学大学院神学部を卒業。同年福岡玉川教会に赴任。69年より松山東雲学園勤務。04年より松山古町教会を牧会した。遺族は、妻・高尾禧久子さん、飯淵よし氏(隠退教師)



10年6月12日、逝去。77歳。宮崎県に生まれる。57年同志社大学大学院神学部を卒業。同年福岡玉川教会に赴任。69年より松山東雲学園勤務。04年より松山古町教会を牧会した。遺族は、妻・高尾禧久子さん、飯淵よし氏(隠退教師)



10年6月16日、逝去。94歳

10年6月28日、逝去。56歳。大阪府に生まれる。76年同志社大学文学部を卒業。00年准允。同年より10年まで同志社教会を牧会し、6月退任した。遺族は、弟・田中俊也さん。

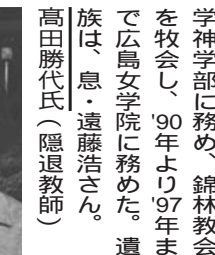


10年6月28日、逝去。56歳。大阪府に生まれる。76年同志社大学文学部を卒業。00年准允。同年より10年まで同志社教会を牧会し、6月退任した。遺族は、弟・田中俊也さん。

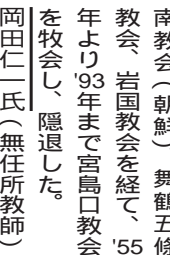


10年7月11日、逝去。89歳。静岡県に生まれる。東

10年7月18日、逝去。101歳。岡山県に生まれる。32年ランパス女学院神学部を卒業。同年国東教会に赴任。城津教会(樺太)、羅南教会(朝鮮)、舞鶴五條教会、岩間教会を経て、55年より93年まで宮島口教会を牧会し、隠退した。



10年7月18日、逝去。101歳。岡山県に生まれる。32年ランパス女学院神学部を卒業。同年国東教会に赴任。城津教会(樺太)、羅南教会(朝鮮)、舞鶴五條教会、岩間教会を経て、55年より93年まで宮島口教会を牧会し、隠退した。



10年8月12日、逝去。80歳。福岡県に生まれる。02年東京聖書学校を卒業。同年高浦教会に赴任し、06年まで牧会した。遺族は妻・



10年8月12日、逝去。80歳。福岡県に生まれる。02年東京聖書学校を卒業。同年高浦教会に赴任し、06年まで牧会した。遺族は妻・

10年8月13日、逝去。78歳。宮崎県に生まれる。58年東京神学大学院を卒業。同年豊橋中部教会に赴任。鷹巣教会を経て、72年より98年まで宮崎中部教会を牧会し、隠退した。遺族は妻・大井上枝美子さん。



10年8月13日、逝去。78歳。宮崎県に生まれる。58年東京神学大学院を卒業。同年豊橋中部教会に赴任。鷹巣教会を経て、72年より98年まで宮崎中部教会を牧会し、隠退した。遺族は妻・大井上枝美子さん。

### 事務局報

補教師登録  
森永憲治  
(2010・7・5受允)

教師異動  
清和 辞主(田中保夫)  
羽生 辞兼担(木谷英文)  
女子学院中学校

大宮	就教)許昌範	天満	辞代)村山盛芳	池田 亨
神戸女学院	就教)森 孝一	七飯	辞主)藤崎裕之	教会設立
富士見町	辞担)伊藤英志	尾鷲	辞代)井石 彰	信濃村(伝道所より)
三軒茶屋	就主)伊藤英志	尾鷲	辞代)三坂幸英	伝道所廃止
東京信愛	就担)鈴木由加子	尾鷲	辞主)鈴木恵子	清和
松山城北	辞主)広瀬満和	尾鷲	辞主)神山繁實	教会所在地変更
北海教区	就教)山本光一	尾鷲	辞代)酒井 薫	相模原 相模原市中央区矢部4-1-20
京葉中部	就主)山本光一	尾鷲	辞主)宮川経宣	翠ヶ丘 相模原市南区相南2-25-65
仙台松陵	就担)田尻かおり	尾鷲	辞主)宮川経宣	相武台 相模原市南区相武台1-21-5
須賀川	辞担)森松民子	尾鷲	辞主)宮川経宣	葛浦 久喜市葛浦町三箇2-9-4
赤池	辞代)長田圭子	尾鷲	辞主)宮川経宣	安土 近江八幡市安土町上豊浦1633
清瀬旭が丘	就主)森松民子	尾鷲	辞主)宮川経宣	波田 松本市波田町101-8613
豊中いわお	就代)内藤智基	尾鷲	辞主)宮川経宣	教会通信先変更
都島	辞担)久保見誠	尾鷲	辞主)宮川経宣	妙高高原 新潟市中央区学
清教学園	就教)井上良作	尾鷲	辞主)宮川経宣	校町通3-15323 高橋千洋方
岡山信愛	辞主)宮川経宣	尾鷲	辞主)宮川経宣	関係団体承認
"	辞担)阪西恵理子	尾鷲	辞主)宮川経宣	社会福祉法人福音会
"	就主)八谷俊久	尾鷲	辞主)宮川経宣	DCE異動
十文字平和	辞兼主)宮川経宣	尾鷲	辞主)宮川経宣	箕面 (就後藤 慧西宮名塩 (辞)吉研一
新居浜	辞兼主)八谷俊久	尾鷲	辞主)宮川経宣	宣教委からの
土佐	辞担)村谷正人	尾鷲	辞主)宮川経宣	お詫び・訂正
"	就担)高橋伸明	尾鷲	辞主)宮川経宣	4704・5号(8月14日発行)3面、第5回宣教委報告(記事)3段目4行、その中で、から10行目までを以下のように訂正してお詫びいたします。
"	"	尾鷲	辞主)宮川経宣	そこで、前担当職員で今は同宗連の事務局長に向かっている職員にお願いしたが、どうしても時間がなくて進められないというので、幹事会で相談して、今アルバイトの方にテーパー起こしをもらうという方向で進めている。



# 宣教師からの声

番外編

## メアリー・イザベラ・ランバス(1832～1904)の 名を冠して

こみ  
小見のぞみ

(学校法人関西学院 聖和短期大学・宗教主事)

わたしが聖和大学のキリスト教教育学科の学生だったころ、聖和(Holy Union)の源流となる3つの学校の創設について聞いた中で、特に印象深い話がありました。創立者の一人であるメアリー・イザベラ・ランバスが、10代の若い日に、中国宣教へのアピールがなされた集会で「わたしは、この5ドルとわたし自身を献げます」と語ったという話です。

この一途で情熱的な言葉は、120年以上経ってそれを聞いた学生であるわたしだけでなく、語られた当時、同じく中国への伝道を志していたジェームズ・ウィリアム・ランバスの心を強くうったのでしょう。彼は、それを語った女性、メアリー・イザベラ・マックリーレンとめぐり合い、1853年10月に結婚。南メソジスト教会の宣教師として翌年5月にニューヨークを出航し、4ヶ月の船旅の末9月18日に中国に到着します。そのわずか2ヵ月後、11月10日に上海で、後に



上/ランバス女史(中央、白いキャップの女性)  
下/山二番校舎

関西学院の創立者となる長男ウォルター・ラッセルが誕生します。

21歳の若いメアリーにとって、初めての赤ちゃんをお腹に宿しての長い船旅、そしてはじめての異国、中国での出産は並大抵のことではなかったと想像します。その頃ジェームズは、月のうち2週間は船に乗り、中国人と生活を共にして伝道の旅をしていたといいます。メアリーは、異郷にあって乳飲み子を抱えて家を守り、その間に女性や子どもたちをあつめて仕事を教え、伝道し、世話をしました。そして彼女は米国の友人へこのように書き送っているのです。「一月ほど前に、わたしたちの心と手の中に、可愛い男の子を与えられました。とてもかわいくて、わたしたちは神様への感謝の心に満ちています。この子が立派に成長してイエスに従う忠実な僕になることが出来るよう心から祈っています。ここには、彼女自身とそこから生まれた命、それらはすべて与えられたものであり、イエスに従うために喜んで献げたものであるという強い信仰が表されています。そしてこの信仰とイエスへの従順は、メアリーの生涯一貫して変わらないものでした。

その後も、数度、米国と中国を行き来し、幼い子どもたちを一時米国に預けたり、6歳の娘を猩紅熱で亡くすという経験をしながらも、彼女は中国伝道にすべてを献げていきます。しかしウォルターが14歳になった1876年、

メアリーは外国伝道局に不思議な言葉を送ります。「日本はわたしたちの行くべき所のように思います。時々日本は、ウォルターにとってよい働き場所だろうと思います<略>『万事は適時に適所で』というのがよい標語で、これを私は忘れたくないと思います。まだ何の計画も到底考えられないときに、静かに抱かれた幻であり、信仰深い母の愛の洞察だったのかもかもしれません。

それから約十年がたち、実に32年間の中国での医療伝道を含めた宣教を突如辞任し、中国語も堪能だった2人(メアリー53歳、ジェームズ56歳)はそれらを捨てて日本に向かい、1885年7月29日に神戸に到着します。3ヶ月遅れてウォルターが着き、2日後には後のバルモア学院や啓明女学院のルーツともなる、読書館を開室し、家族あげての神戸での宣教が始まります。

1887年、メアリーは神戸居留地から神戸市内山二番(現在の中山手)に転居し、自宅の1階応接間で若い女性たちのための家庭塾を開き、編み物や英語、西洋料理、聖書を教え始めるほか、広島女学校のゲーンズを応援するため広島に向かうなど、精力的に西日本での宣教に取り組みます。そのころ神戸に生まれたメソジスト諸学校の萌芽の存廃が取りざたされた時、メアリーの言葉で廃止が回避されたというエピソードも残されています。1888年、メアリーの神戸の教室は、岡島初音(後に吉岡美国の妻となる)を補助者として

与えられ、本国伝道局に認められて、神戸女子学校(神戸婦人伝道学校)後にランバス記念伝道女学校と呼ばれることとなります。メアリーは、その後1892年、夫ジェームズを神戸で亡くし、米国へいったん帰国しますが、娘ノラ夫妻が宣教を続ける中国へ再度渡り、最後は中国蘇州にて71歳で召天、上海に葬られたのでした。

メアリーの日本での活動は、わずか7年、メソジスト教会の日本宣教監督ウォルターと病弱だったその妻デイジー一家を支え、孫たちの世話をしながらのものでした。しかし、1921年に広島女学校保母師範科と神戸のランバス記念伝道女学校が合併して、保育者と女性伝道者の養成のために大阪に敷地千坪の立派な学校が建てられた時、新聞(\*)はこの学院がそのときはもうすでにこの世になかったメアリーの名前を冠して、「ランバス女学院」と命名されたことを伝えています。

\* (原文のまま)「もともと同院は明治20年の頃アメリカ南メソジスト教会がわが国の伝道を開始するにあたってゼー・ダブリュー・ランバス夫人が派遣されて爾來同夫人は、赤子片手に聖書を持ち、キリスト教義の宣伝ならびに教養に努めた人で該院の今日あらしめたのもまったく同夫人に負うところが多いというところから、その表彰の意味でランバスの名を特に冠したものであるそう」

こうしてメアリーの名前(ランバス)をつけた学校は、後に聖和女子学院、聖和大学へと発展し、昨2009年4月にはウォルターの建てた関西学院と合併して、保育者と教員養成の場として、これからも歩いていくことになりました。メアリーの信仰と決意、若い日のあの献身が結んだ実の、今日の姿だと思います。ヨシュアが決然と語った、「ただし、わたしとわたしの家は主に仕えます。」(ヨシュア24:15)の言葉が彼女の声として聞こえてくるようです。その名を冠した歴史を受け継いで、歩んでいけるようにと願っています。

- Kyodan Newsletter より -



深山 祐さん

## 教団教誨師会会長 に就任



1941年生まれ。明治学院大学大学院、日本聖書神学校、東神大大学院卒。国分寺南教会牧師。

深山祐さんは1985年、91歳で教誨師を退いた父の故佐太郎牧師の後を受けて、府中刑務所の教誨師に就任した。

以来教誨師25年間、今や父親の教誨師20年を上回り、近年、立川拘置所の教誨師も務めている。

府中刑務所は、受刑者3,000人と受刑者数では日本最大の刑務所だが、近年、目立つのは「高齢化と再犯者の多いこと」だといふ。「再犯者が多いのは、教誨の力が足りないのではないかと、いろいろ考えさせられる」と深山さんはいうが、月1・2回、1回45分ほどの教誨では、時間的制約があるだけでなく、集合教誨、個人教誨とあって、1対1で話せる時間は限られて

いる。「出所後にこの教会でもいから、教会を訪ねて下さい」と深山さんは、教誨で語りかけているが、それを覚えていて教会を訪ねてくれた人が、聖書が欲しい」と申し込んできたことに話しかけて来たことがある。刑務所にいる間に、新約聖書すべてを筆写した人もいたそうだ。

深山さんと話していると、父親の薫陶がいかに大きかったかが分かる。教師をしながら日本聖書神学校に学び、東神大大学院を卒業した。父親が開拓伝道した国分寺南教会で、夫人の正子牧師と共に、亜細亜大学で教鞭を執りながら牧会している。

教団の教誨師は、教誨師のいない北海、沖縄を除き15教区で98人、1,800人を数える教誨師全体では、圧倒的に仏教系が多く、キリスト教教誨師は1割強にしか過ぎない。他宗教との関係の中で、教誨師の位置付けを明確化する必要が生じて、40年間続いた教誨事業協力会を発展的解消し、本年6月、日本基督教団教誨師会を設立。深山さんが初代会長に選出された。

3月で30年間牧会した教会を退任した。退任後ゆくりしよと思っていたが、他の教会より代務者を依頼された。4月から半年間の約束である。

代務に就任してまもなく、洗礼志願をいただく。30年前に前任の教会に赴任し、最初の礼拝が終わった時、一人の姉妹が受洗を申し出られた。同姉の信仰を受けとめつつも、同姉については何も分からない。役員会で協議し、クリスマス礼拝にて洗礼式を執行することにしたのである。それまで4ヵ月ある。

### 洗礼志願を受けとめるとき

代務者になって、同じように早々と洗礼志願をいただいた時、前任の経験がよぎった。半年経てば後任の牧師が就任する。その時まで待つのもよいか、お祈りをささ

受洗である。末期の癌であり、余命半年とも言われている。洗礼志願は本人の意思であるとも言われた。早速、お連れ合いを訪ね、十字架の救いを示し、お祈りをささげたのである。それから一ヵ月後のペンテコステ礼拝で洗礼式が執行された。そして8月に天に召されたのである。

(教団書記 鈴木伸治)